

【改訂執筆協力者】

- 池田 和博 NPO 法人北海道安全衛生研究所 会長 兼 所長
 今川 輝男 中央労働災害防止協会 近畿・大阪安全衛生総合サービスセンター
 角元 利彦 元 公益社団法人日本作業環境測定協会 専務
 後藤 博俊 (一社)日本労働安全衛生コンサルタント会 顧問 労働衛生コンサルタント
 堀江 正知 産業医科大学 副学長 (兼任) 産業保健管理学研究室 教授
 前田 啓一 前田労働衛生コンサルタント事務所 労働衛生コンサルタント
 三觜 明 WORKFORCE WELLNESS 中災防安全衛生エキスパート

(敬称略 50音順)

※本書は、上記編集委員会によって検討・執筆された「衛生管理<上>第1種用テキスト」(中央労働災害防止協会・発行)の内容に基づき、第2種用の試験科目及び範囲にあわせ、編集したものです。

凡例～本書で使用する法令等の略語は次のとおりです。

労働安全衛生法	安衛法	電離放射線障害防止規則	電離則
労働安全衛生法施行令	安衛令	酸素欠乏症等防止規則	酸欠則
労働安全衛生規則	安衛則	粉じん障害防止規則	粉じん則
作業環境測定法	作環法	石綿障害予防規則	石綿則
有機溶剤中毒予防規則	有機則	事務所衛生基準規則	事務所則
鉛中毒予防規則	鉛則	労働基準法	労基法
特定化学物質障害予防規則	特化則	労働基準法施行規則	労基則
高気圧作業安全衛生規則	高圧則	女性労働基準規則	女性則
四アルキル鉛中毒予防規則	四アルキル鉛則		

※ 本書に収録した関係法令は、令和7年12月31日までに公布されたものである。

目 次

第1章 はじめに

1 労働衛生管理とは	12
(1)労働衛生管理の目標/12 (2)衛生管理者とは/13	
2 衛生管理者の役割	13
(1)業務上疾病への対応/14 (2)快適職場環境の形成, 健康保持増進/14 (3)安全配慮義務/15 (4)衛生管理者への期待/16	
3 労働衛生の現状	18
(1)労働災害及び業務上疾病の発生状況/18 (2)定期健康診断等の実施結果/22 (3)ストレスがある労働者の割合/24	

第2章 衛生管理体制

1 トップ, ライン, スタッフの役割	26
(1)トップの役割と責任/26 (2)ラインの役割/26 (3)スタッフの役割/26	
2 労働衛生管理体制の整備	27
(1)総括安全衛生管理者 (安衛法第10条) /27 (2)衛生管理者 (安衛法第12条) /29 (3) (安全) 衛生推進者 (安衛法第12条の2) /32 (4)産業医 (安衛法第13条) /32 (5)作業主任者 (安衛法第14条) /33 (6)その他 (安衛則に基づくもの) /34	
3 (安全) 衛生委員会の活用	35
(1)委員の構成/35 (2)調査審議事項/36 (3)委員会の開催/37 (4)議事の概要の周知/37	
4 労働安全衛生マネジメントシステムとリスクアセスメント	37
(1)労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS) とは/37 (2)リスクアセスメントとは/39	
5 労働衛生管理に必要な記録と届出, 報告	41
(1)記録/41 (2)届出, 報告/41	

第3章 作業環境要素と職業性疾病

1 作業環境要素とは	44
2 一般作業環境	45
(1)温熱環境/45 (2)空気環境及び換気/49 (3)視環境/50 (4)音環境/52 (5)作業空間/54 (6)休憩時間と休憩室/54	
3 生物学的要因と健康障害	55
(1)感染症の特徴/55 (2)呼吸器感染症/56 (3)食中毒/58 (4)血液媒介性感染症/61 (5)海外勤務における感染症対策/61 (6)その他の生物学的要因による健康障害/61	
4 作業要因と健康障害	62
(1)情報機器作業に伴う健康障害/62	

(2)重量物取扱い作業等に伴う筋骨格系障害（腰痛等）／63	
(3)心理的負荷による精神障害／64	(4)夜勤・交替制による健康障害／65
(5)過重負荷による脳・心臓疾患／66	
5 職業性疾病と業務上疾病	69
(1)職業性疾病とは／69	(2)業務上疾病の概念／69
(3)作業関連疾患の概念／69	

第4章 作業環境管理

1 作業環境管理の意義と目的	72
(1)作業環境管理の目的／72	(2)健康障害の発生経路／72
(3)健康障害の防止対策／73	
2 作業環境管理の進め方	74
(1)作業環境管理のサイクル／74	(2)作業環境の状況把握／75
(3)作業環境の改善／75	
3 作業環境測定	76
4 作業環境の改善	76
(1)事務所の温熱条件／78	(2)事務所の気積／78
(3)事務所の換気／79	(4)事務所の必要換気量／79
(5)採光と照明の点検／80	(6)騒音、振動／81
(7)清潔の保持と休養の設備等／81	(8)作業環境等の測定、点検／81
(9)その他／82	
5 快適職場環境の形成	82
(1)快適職場づくりの考え方／82	(2)快適職場づくりの進め方／83
(3)快適職場づくりの具体的な措置とその事例／86	

第5章 作業管理

1 作業管理の目的と意義	90
(1)作業管理とは／90	(2)労働安全衛生関係法令による作業管理／90
(3)作業管理の手法／91	
2 労働態様と産業疲労	93
(1)産業疲労対策／94	(2)作業時間と休憩／96
(3)交替制勤務／97	
3 作業条件の管理	97
(1)作業手順／97	(2)作業姿勢／98
4 作業管理の具体例	102
(1)腰痛予防対策／103	(2)情報機器作業／106
(3)テレワーク／107	

第6章 健康管理

1 健康管理の意義と目的	110
(1)健康管理の目的／110	(2)職場における健康管理の特徴／111
(3)予防医学／113	
2 医学的検査	114
(1)問診、診察／114	(2)身体測定／114
(3)視聴覚検査／116	(4)血圧測定／117
(5)胸部エックス線検査／117	(6)心電図検査／117
(7)尿検査／117	(8)血液検査／118
(9)その他の検査／120	
3 健康診断	120
(1)健康診断の企画／120	(2)健康診断の準備／122
(3)一般健康診断／124	

(4)特殊健康診断／127	(5)指導勧奨による特殊健康診断／128
(6)深夜業従事者の自発的健康診断／129	(7)二次健康診断及び特定保健指導／129
(8)肝炎ウイルス検査／131	(9)任意の健康診断／131
(10)健康診断の再検査又は精密検査の取扱い／132	(11)未受診者の取扱い／133
(12)健康診断結果の判定／133	

4 健康診断の事後措置.....

(1)健康診断結果の通知／134	(2)健康診断結果の保存／135
(3)健康診断結果の報告／135	(4)就業上の措置／136
(5)保健指導／137	(6)就業上の措置と保健指導のバランス／138
(7)健康診断の評価と改善／138	

5 適正配置.....

(1)健康面の就業適性／139	(2)復職時の健康管理／139
(3)特別な職場における就業適性／140	(4)病者の就業禁止／141
(5)障害者への合理的配慮／141	(6)中高年齢者への配慮／141
(7)年少者の保護／143	(8)母性の保護・働く女性の健康問題／144

6 雇用・就業形態と健康管理.....

(1)短時間（パート）労働／144	(2)季節雇用・有期雇用／145
(3)海外勤務／145	(4)単身赴任／145
(5)派遣労働者／146	

7 過重労働による健康障害防止対策.....

(1)過重労働による健康影響／146	(2)過重労働の把握／147
(3)労働時間の算定／147	(4)長時間にわたる時間外・休日労働等を行った労働者に対する面接指導／148
(5)過重労働の原因の調査と対策／150	(6)衛生委員会での報告／151

8 職場における受動喫煙防止対策.....

(1)施設の種類別の規制内容／152	(2)施設・設備面の対策／152
(3)職場の空気環境／153	

9 健康情報の取扱い.....

(1)健康情報の取得／154	(2)健康情報の保存／155
(3)健康情報の活用／156	(4)健康情報を取り扱う体制の整備／158

10 健康に関する危機管理（感染症）.....

(1)結核／159	(2)インフルエンザ／159
(3)新型コロナウイルス感染症／160	(4)流行性角結膜炎／160
(5)食中毒／160	(6)帰国者の感染症／160

11 健康管理に関する事業場外との連携.....

(1)労働衛生関係団体との連携／161	(2)健康管理専門機関との連携／162
(3)医療保険者と事業者との共同実施／162	(4)医療職との連携／163
(5)地域保健等との連携／163	(6)地域医療との連携／164

第7章 健康保持増進対策とメンタルヘルス対策

1 健康保持増進対策（THP）の意義と目的	166
2 健康保持増進対策推進に当たっての衛生管理者の役割	166
3 健康保持増進対策の基本的考え方	167
4 健康保持増進対策の推進に当たっての基本事項	168
(1)健康保持増進対策の推進に当たってのポイント／168	
(2)健康保持増進対策の各項目（PDCA サイクル）／169	

5 健康保持増進対策の推進に当たって事業場ごとに定める事項	170
(1)推進体制の確立/170	(2)健康保持増進措置の内容/171
6 健康保持増進対策の推進における留意事項	171
(1)「ハイリスクアプローチ」と「ポピュレーションアプローチ」の視点/172	
(2)労働者の積極的な参加を促すための取組み/172	
(3)労働者の高齢化を見据えた取組み/172	
7 職場におけるメンタルヘルス対策	173
(1)メンタルヘルス対策をめぐる状況/173	(2)労働者の心の健康の保持増進のための指針/175
(3)心の健康づくり計画/175	(4)メンタルヘルスケアの推進/176
(5)メンタルヘルス教育/179	(6)ストレスチェック制度/180
(7)職場復帰支援/185	(8)職場環境等の評価と改善/186
(9)心の健康に関する相談機能の整備/186	
(10)産業保健スタッフ等及び管理監督者との連携/188	
(11)職場のいじめ・嫌がらせによるメンタルヘルス不調の防止/188	

第8章 労働衛生教育

1 労働衛生教育の目的と意義	194
2 労働安全衛生法と労働衛生教育	194
3 労働衛生教育の企画、進め方	200
(1)労働衛生教育の目標を立てる/200	(2)教育計画の作成/200
(3)教育の進め方/202	
(4)教育結果の評価/205	
4 教育技法としての職場小集団活動	207

第9章 労働衛生管理統計

1 労働衛生管理統計の目的と意義	210
2 統計の基礎知識	210
(1)統計とは/211	(2)統計の活用とは/211
(3)統計データの種類/211	
(4)母集団と標本/212	(5)データの分析/212
(6)データの扱い方/213	
3 疫学について	214
(1)疫学とは/214	(2)事象の多発/214
(3)因果関係/214	
4 労働衛生管理に用いられる統計の特徴	215
(1)一般的な特徴/215	(2)スクリーニングレベル/215
5 疾病休業統計	216
6 保健統計作成のステップ	217

第10章 救急処置

1 救急蘇生法	220
(1)一次救命処置及び応急手当における衛生管理者の役割/220	(2)手当の重要性/220
(3)救命及び応急手当の手順/222	(4)一次救命処置/224

2 応急手当	234
(1)外傷の応急手当/234	(2)急病の応急手当/242
(3)中毒の応急手当/247	
(4)救急資材等の準備と防災組織づくり/249	

第11章 労働生理

1 人体の構造及び機能	254
(1)細胞、組織、器官(臓器)の構成/254	(2)体液と血液の組成と働き/254
(3)循環器のしくみと働き/258	(4)呼吸器のしくみと働き/261
(5)消化器のしくみと働き/265	(6)栄養と代謝/270
(7)体温調節/273	(8)尿の生成と排泄/275
(9)内分泌腺とホルモン/276	(10)免疫/277
(11)筋骨格系の種類と働き/280	(12)神経系のしくみ/282
(13)感覚/286	(14)生殖器/291
2 ライフサイクルと人体の機能の変化	292
(1)加齢/292	(2)妊娠・出産/294
3 環境条件による人体の機能の変化	296
(1)恒常性(ホメオスタシス)/296	(2)環境による人体機能の変化/296
(3)ストレス/296	
4 疲労及びその予防	299
(1)疲労/299	(2)疲労の分類/299
(3)疲労の評価/300	(4)産業疲労の経過と対応/300
5 睡眠	303
(1)睡眠/303	(2)サーカディアンリズム/304

第12章 有害業務に係る労働衛生概論

1 有害作業環境と職業性疾病	306
(1)有害作業環境/306	(2)有害性/306
(3)有害要因による健康影響の評価/307	
(4)化学物質による健康障害防止対策/308	(5)化学物質の自律的な管理/309
(6)石綿(アスベスト)と健康障害の防止対策/309	
(7)粉じん障害の防止対策/310	(8)電離放射線障害の防止対策/310
(9)酸素欠乏症等の防止対策/310	(10)騒音障害の防止対策/310
(11)振動障害の防止対策/311	
2 有害業務に係る作業環境管理	311
(1)作業環境測定/311	(2)作業環境測定結果の評価及びその結果に基づく措置/312
(3)作業環境改善/312	
3 有害業務に係る作業管理	314
4 有害業務に係る健康管理	315
(1)一般健康診断/315	(2)特殊健康診断/315
(3)じん肺健康診断/316	
(4)健康管理手帳/317	